



## 説教要旨「あの人クリスチャンなんだって」

使徒言行録 11章 19～30節

アンティオキアという町は、ローマ帝国第三のマンモス都市で、商業、貿易の中心であり、様々な民族の人々が暮らす国際都市でした。このアンティオキアに、イエス様を救い主と信じる者の群れ＝教会が生まれました。それは、キリスト者に対する大迫害から逃れて各地に散って行った者たちが、アンティオキアにおいて、ユダヤ人で無い「ギリシャ語を話す人々」にも語りかけ、イエス様のことを告げ知らせ始めたのです。そうして、アンティオキアに異邦人を中心とする教会が生まれ、ユダヤ人で無い多くの人々がイエス様を救い主だと信じる様になったのです。

このアンティオキアで、キリスト信者たちが初めて「キリスト者」と呼ばれるようになりまし。自分たちでそう名乗ったのではありません。周りの人たちが「あの人クリスチャンなんだって」と、言うようになったのです。そこには多分に侮蔑の意味が込められています。ユダヤ教徒が、ギリシャ人たちが、自分とは違う者たちとして、そう呼ぶようになったのです。彼らの中にはユダヤ人もギリシャ人も混在していて、もはや「ユダヤ人」という言葉ではくれない存在になっていたからです。

「あの人クリスチャンなんだって」。わたしたちも周囲の人からそんな風言及されることがあるかもしれません。そこには、自分とは違う、異質な存在を見る目が向けられています。けれどもわたしたちは、キリスト者、あるいはクリスチャンと呼ばれることを、異質な存在へと向けられる目を怖がる必要はありません。

イエス・キリストのみ名によって呼ばれることはなんと光栄なことでしょうか。キリストの名によって呼ばれる者として、イエス・キリストによる罪の赦しの恵みを信じ、ただイエス様の御言葉をのべ伝える。それがキリスト者です。イエス様を救い主と信じる人々は、ユダヤ人、ギリシャ人という枠組みを超えて、キリスト者となりました。その意味で言うならばわたしたちも、日本人という枠組みを超えて、キリスト者なのです。

(2022・7・3 説教者：稲垣真実)